

研究結果報告書

朝鮮における日本新派劇の受容に関する研究

所属： 漢陽大学校 芸術学部 映画専攻

役職： 講師

氏名： 韓 相言

本研究は1905~1923年の間に、朝鮮で日本の新派劇がどのように収容されて、1910年代後半から製作され始めた朝鮮の劇映画にどんな影響を与えたかを調査した。主要研究内容は以下の通りである。

第一に、朝鮮における日本の新派劇団の活動内容の把握である。

本研究では1905年から1923年の間に朝鮮で上演された日本新派劇と日本映画たちを調査した。1910年以前の京城の日本人劇場街で上演されたプログラムの多くは新派劇をはじめとする舞台劇だった。しかし、1910年以降、活動写真の専用館が続出し、日本の新派劇は、大部分が映画を通じて収容されたことを知ることができる。

しかし、依然として日本の有名な公演団体が朝鮮でも上演された。

第二に、朝鮮人新派劇団と日本の新派劇団のレパートリーの比較。

朝鮮人新派劇団のプログラムと日本から渡ってきた新派劇団のプログラムは様々な先行研究を通じて研究されたことがある。既存の先行研究で言及されていない事項は活動写真の形で輸入された新派活動写真だ。朝鮮に紹介された新派活動写真は既存の有名新派のレパートリーだけでなく新聞に報道された事件を劇化したことが多かった。こうした日本の新派活動写真の影響で朝鮮で日本人たちが製作した初期の活動写真でも朝鮮で起きた事件を劇化したものもあった。

第三に、新派劇に活動写真を加えた日本人連鎖劇の公演とこれが朝鮮人連鎖劇に及ぼした影響だ。本研究の核心は、まさに日本新派劇の重要な形態として、連鎖劇の流入と定着に関するものといえる。日本人連鎖劇は1915年、仁川(インチョン)で上演された後、1920年代序盤まで劇場の主要なプログラムで活用された。このような新たな見どころは、朝鮮人劇場の経営者らと朝鮮の新派劇団にも影響を与えた。その結果1919年に朝鮮人が主軸になった連鎖劇が製作され始め、続いて一部の映画では映画のプロローグを演劇に製作して上演する形で活用された。

このように日本新派劇は朝鮮の新派劇だけでなく、朝鮮で製作され始めた劇映画にも大きな影響を与えた。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

「植民地朝鮮で連鎖劇の流入と定着に関する研究」、韓相言、2014年、
韓国映画学会秋季定期学術セミナー、2014年12月6日13~17時、
京畿大学校一般大学院のセミナー室

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

「植民地朝鮮で連鎖劇の流入と定着に関する研究」、韓相言、『映画研究』,
2015年6月.

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)